

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2022・1月号

石川県学校生活協創立73年目 健康経営（健康・清潔・迅速・丁寧・挑戦・学習・笑顔）

新年あけまして、おめでとうございます！

—第20次3か年計画の1年目（黒字化・正職員化・還元実現）—

石川県学校生活協同組合の理事長に就任して今年の6月で6年になります。2022年度は、創立73年目で、人間で言えば「古希」を越えた本当に長寿の組合です。

昨年2021年は、第19次3か年計画最終の3年目でした。この第19次の間に黒字を常態化させ、出来れば利用高割戻しを再現させること、そして正職員を希望する職員を全員正職員化させることが三大目標でした。その最終報告です。全職員の正職員化はもう少しで実現できるところまでできました。黒字化については、2021年10月から損益状況は黒字に転換できており、この年度末でも何とか黒字にできるのではないかと期待している状況です。本当に嬉しい報告です。一番難しいのは利用高割戻の実現です。これは事業外収入を除いて黒字化した時に実現できるもので、事業内収入だけでは大変厳しい状況です。しかし、それでも、新一年生への防犯ブザーの進呈をしたり、全員利用運動の利用高の0.3%を被災地に寄付したりと、現在できる社会貢献をしてきました。



2022年は第20次3か年計画の1年目になります。上記の目標に向かって頑張ります。

まず、最初の取り組みは、春の全員利用運動です。今回のテーマは「無」です。無農薬・無化学肥料・無添加・無薬品・無かんすい等学校生協の商品は「無」にこだわっています。それは「自然」が第一だと言う事です。多くのご利用をお願いします。

11月の単月剰余は197万円でした。 累計経常剰余金は288万円の黒字です！

11月単月は、供給高、供給剰余ともに予算比、前年比を下回りましたが、保険手数料や雑収入が前年より増加したこともあり、197万円の経常剰余となりました。累計の供給高は予算には届いていませんが、前年より344万円増加し、供給剰余金も102万円増えました。事業剰余金が▲666万円ですが、予算比221%（811万円）前年比401%（401万円）で大きく改善していて、事業外収益他を加算すると288万円の経営黒字となりました。2021年度の黒字化は実現できそうです。それと同時に、新規採用教職員の加入率95%も実現したいと思っていますので、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

『 ライプニッツ 』

北本 豊春

合理主義の考え方を受け継いで思想を組み立てたドイツの哲学者が、ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツです。科学者・数学者としてもよく知られています。ライプニッツは『モナド論』を唱えて世界の構成を説明しようと試みました。宇宙はモナドと言う最小単位の実体が無数に集まって造られていると言う主張です。モナドには三段階のレベルがあると想定しました。一番目のモナドは物質を構成するモナド。二番目は動物の魂を構成するモナド。三番目は人間の精神を構成するモナドです。これらの三段階のモナドの上に原初的なモナドがあつて、それこそが三段階のモナドを創造した神だと考えたのです。個々のモナドは完全に独立していて、他のモナドから影響を被ることはない」と説明しました。このことを『モナドは窓を持たない』と表現しています。モナドに窓があつたとしたら、他のモナドが入り込んで、混ざり合ってしまうからです。人間のモナドに他の動物のモナドが混ざれば奇妙な生き物が生まれてしまいます。互いに独立したモナドのひしめく世界は混沌としていて不具合が生じるので原初的なモナドの神が世界の様相を予め調整し、調和が取れるように構成・設定したと説明しています。これが『予定調和説』です。数学にも長けていたので、様々な数学研究を重ね、微分・積分の方法について発見し、後世に影響を与え、重要な数学研究にも打ち込みました。数学者の業績は一際知られています。

編集後記

実礼の年賀状を出しました！
「理事長、来年の年賀状はどうしますか？」と12月初めに相談を受けました。「なんで？」「このごろ年賀状を廃止している企業が多くありますよ」ということでした。その時ちょっと考えました。「虚礼の年賀状は廃止すべき」これはそうだな。でも「虚礼ではない、実礼の年賀状だったら、廃止ではないな」。じゃあ実礼の年賀状とは一体どんなものだろう？そして結論は、実礼の年賀状を出すことにしました。ありきたりの「昨年はお世話になりました。今年もよろしく」のようなものではなく、石川県学校生活協の現在の状況を報告するものにしたのです。本来、年賀状は久しく会っていない友人や親せき、お世話になった関係者に対して、近況を知らせる実礼だったものが、いつの間にか、出す事が第一になって、儀礼的な虚礼になっていったのだと思います。
*昨年は色々とお世話になり、ありがとうございました。今年もよろしく願います。これは虚礼か？でも、本当にご協力感謝します。（実礼をする道祐）